

連絡先:

メディア・リレーションズ  
岩立 澄子  
03-5424-5020



For Immediate Release

## モルガン・スタンレー

**2004 年度第 1 四半期の一株当たり利益は 35%増、  
12 億ドルの純利益を計上、株主資本利益率は 19%**

[ニューヨーク、2004 年 3 月 18 日] モルガン・スタンレー(NYSE:MWD、以下、同社)は本日、2004 年度第 1 四半期(2003 年 12 月 1 日—2004 年 2 月 29 日)の純利益が 12 億 2,600 万ドルと、2003 年第 1 四半期から 35%、2003 年第 4 四半期から 21%増加したと発表した。希薄化調整後 EPS(一株当たり利益)は 1.11ドルと、前年同期の 0.82ドル、前期の 0.92ドルから増加した。

第 1 四半期の純収入(総収入から金利費用と貸倒引当金を差し引いた金額)は、前年同期比 14%増、前期比 23%増の 62 億ドルとなった。

モルガン・スタンレー会長兼 CEO のフィリップ・J・パーセルは次のように述べた。「複数の業務分野で過去最高の収入を達成し、投資銀行業務で大幅に市場シェアを伸ばすことができた。株主資本利益率は 19%を記録し、非常に好調な第 1 四半期となった。セールス & トレーディング業務は引き続き極めて好調で、個人投資家向け証券業務と資産運用業務も堅調な業績を挙げ、ディスカバーカードは過去最高の四半期決算となった」

### 法人・機関投資家向け証券業務

法人・機関投資家向け証券業務部門の税引き前利益<sup>1</sup>は 11 億 8,600 万ドルと、2003 年第 1 四半期の実績を 26%上回った。債券業務に加えて、株式引受業務とトレーディング業務の事業環境改善が寄与し、純収入は 2000 年第 2 四半期以来の記録を更新した。

<sup>1</sup> 非連結子会社および関連会社の損失、強制償還の対象となる優先証券に対する税金と配当を計上する前の利益

- 債券のセールス & トレーディング業務の純収入は、前年同期より若干増加して過去最高の 17 億ドルとなった。クレジット商品および金利・為替商品の収入が増加した。クレジット商品は商業用および住宅用ローンの証券化の増加、堅調な顧客取引高、信用スプレッドの縮小が追い風となった。金利・為替商品は外国為替、非課税債、新興市場債の取引環境の好転から恩恵を受けた。コモディティ商品も石油市場の高水準のボラティリティを受けて、堅調に推移した。
- 株式のセールス & トレーディング業務の純収入は、前年同期比 13%増の 11 億ドルと、2001 年第 2 四半期以来の業績を達成した。これは、市場での売買高の増加と堅調な新規発行に起因するグローバル・ベースでの現物株の取引の増収が原動力となった。プライム・ブローカレッジ業務の増収

連絡先:

メディア・リレーションズ  
岩立 澄子  
03-5424-5020



For Immediate Release

も寄与した。

- アドバイザリー業務は、業界全体の取引完了ベースのM&A取扱高が前年同期比13%減少したものの、収入は同40%増の2億3,200万ドルとなった。<sup>2</sup>
- 引受業務の収入は前年同期比51%増の5億700万ドルとなった。株式引受業務の収入は、2003年第1四半期の低水準に比べ業界全体の株式発行業務が急増したことを受けて、ほぼ150%増加した。債券引受業務の収入は、業界全体の引受業務が前年同期の高水準から小幅減少したことを受けて、7%減となった。<sup>2</sup>
- 年初来では、グローバルベースのM&A案件取扱高において、公表ベースで第2位(シェア45%)、世界の株式および株式関連証券の引受高で第1位(14%)、世界の新規株式公開(IPO)の引受高で第1位(29%)、世界の債券引受高で第4位(7%)を確保した。<sup>3</sup>

<sup>2</sup> 出典:トムソン・ファイナンシャル・セキュリティーズ・データ:2002年12月1日—2003年2月28日、2003年12月1日—2004年2月29日

<sup>3</sup> 出典:トムソン・ファイナンシャル・セキュリティーズ・データ:2004年1月1日—2004年2月29日

## 個人投資家向け証券業務

個人投資家向け証券業務部門の税引き前利益は、2003年第1四半期の6,100万ドルから1億6,600万ドルに増加した。

- 株式への投資家の関心の高まりを受けて手数料収入が49%増加した上、資産水準の上昇に伴い資産運用、販売、管理手数料が22%増加したため、純収入は23%増の12億ドルとなった。
- 総顧客預り資産は5,950億万ドルと、前年同期末から970億ドル増加した。その約15%は新規資金の純流入によるものだった。手数料ベース口座の顧客預り資産は前年同期比36%増の1,430億ドルとなり、総顧客預り資産に占める比率は前年同期の21%から24%へと引き続き上昇した。
- 第1四半期末時点のファイナンシャル・アドバイザーの総数(グローバルベース)は10,832人と、前期比254人、前年同期比1,224人減少した。

## 資産運用業務

資産運用業務部門の税引き前利益は前年同期比70%増の1億7,000万ドルとなった。平均預り運用資産の増加と、株式市場の回復による資産構成の改善を背景とする増収が寄与した。

- 預り運用資産は、主に相場上昇を受けて前年同期実績から910億ドル(23%)増の4,950億ドルとなった。<sup>4</sup>同期間の純資金流入額も総額でプラスとなった。
- 個人投資家からの預り資産は前期比170億ドル、前年同期比480億ドル増加して、2,940億ドルとなった。機関投資家からの預り資産は前期比160億ドル、前年同期比430億ドル増加して、2,010億ドルとなった。
- 総合的なサービスを提供している証券会社の中で、モーニングスターの上位2ランクのいずれかに格付けされている米国内ファンドの本数(41本)で同社は業界トップに付けている。<sup>5</sup>加えて、単年度のリップパー・ランキングの上位半分に占める同社ファンドの資産の比率は前年同期の60%から54%

本文は2004年3月18日付のモルガン・スタンレーの2004年度第1四半期の決算発表プレス・リリースの参考和訳です。本文と原文の内容に相違がある場合には原文が優先します。

連絡先:

メディア・リレーションズ  
岩立 澄子  
03-5424-5020



For Immediate Release

となった。<sup>6</sup>

<sup>4</sup> 一部の預り運用資産に関連する収入と費用は同社の個人投資家向け証券業務部門および法人・機関投資家向け証券業務部門に含まれている。

<sup>5</sup> 総合的なサービスを提供している証券会社には、同社の他に 2004 年 2 月 29 日時点でメリルリンチ、シティグループ、プルデンシャルが含まれる。

<sup>6</sup> 2004 年 2 月 29 日時点

### クレジット・サービス業務

クレジット・サービス業務の税引き前利益は、管理債権ベースで前年同期比 26%増の 3 億 6,500 万ドルと、過去最高を記録した。加盟店およびカード加入者の手数料収入の減少で一部相殺されたものの、信用の質の向上と資金調達コストの低下が寄与した。

- 第 1 四半期末時点のクレジットカードの管理債権は 473 億ドルと、前年同期比 9%減となったが、これは同社が収益性改善のため販促活動を抑制した結果、残高振替が減少したことが主な原因である。
- 加盟店およびカード加入者の手数料収入は前年同期比 5%減の 5 億 1,900 万ドルとなった。カード加入者への還元が増大し、延滞率低下を受けてカード加入者の延滞料が減少したが、加盟店の割引収入の増加がこれを一部補った。
- クレジットカードの純貸倒償却率は 6.31%と、前年同期比 14 ベーシスポイント上昇したが、前期比では 56 ベーシスポイント低下した。純貸倒償却率が前年同期比で上昇したのは、クレジットカード・ローンの平均残高が 41 億ドル減少し、純貸倒償却額の減少を上回ったことが原因である。ディスカバーカードでは破産による損失が約 3 年間の最低水準に低下したため、純貸倒償却率は前期から低下した。
- 30 日以上の延滞債権比率は前年同期比 53 ベーシスポイント低下して 5.80%、90 日以上の延滞債権比率は同 9 ベーシスポイント低下して 2.86%となった。30 日以上の延滞債権比率は 4 四半期連続で低下した。

同社取締役会は四半期ベースで普通株一株当たり 0.25ドルの配当を行うと発表した。配当金は 2004 年 4 月 9 日時点の普通株主に対し、2004 年 4 月 30 日付けで支払われる。

2004 年 2 月 29 日時点の総資本は 964 億ドル(普通株式およびキャピタル・トラストに対して発行された劣後債 290 億ドルを含む)、発行済株式数 11 億株に基づく普通株式一株当たり簿価は 23.75ドルである。

モルガン・スタンレーはグローバルな総合金融サービス企業であり、証券、資産運用、クレジット・サービス業務において、市場のリーダー的存在である。現在、世界 27 カ国に 590 のオフィスを擁する同社は、人、アイデア、資本をつなぐグローバル・ネットワークを最大限に活かし、世界中の顧客に質の高い金融商品およびサービスを提供している。

本文は 2004 年 3 月 18 日付のモルガン・スタンレーの 2004 年度第 1 四半期の決算発表プレス・リリースの参考和訳です。本文と原文の内容に相違がある場合には原文が優先します。

連絡先:

メディア・リレーションズ  
岩立 澄子  
03-5424-5020



For Immediate Release

本プレスリリースは同社ウェブ・サイト([www.morganstanley.com](http://www.morganstanley.com))上でも公開している。

- 以上 -

このプレス・リリースには予想的見解が含まれている可能性がある。予想的見解は、経営者の信念と期待を反映したものであり、実際の結果が経営者の予想と異なるリスクおよび不確実性が存在する。実際の結果に重要な影響を与え得る潜在的なリスクおよび不確実性に関しては、フォーム 10-K に基づく 2003 年度同社年次報告書の Part I、Item 1 の直前に記載されている「予想的見解」の項、同報告書 Part II、Item 7「経営者による財務状況と業績の説明ならびに分析」セクション内の「業績に影響を及ぼした各種要因について」、同報告書 Part 1、Item 1 内に記載されている「市場の競争」および「各種規制」の項を参照されたい。